

**令和3年度東峰村地域公共交通計画
策定検討業務報告書**

【概要版】

株式会社 九州経済研究所

〈 目 次 〉

第Ⅰ章	はじめに	
1	業務目的 -----	1
2	本報告書について -----	1
第Ⅱ章	調査結果の主なポイント	
1	調査結果の主なポイント -----	2
2	東峰村の公共交通計画の方向性 -----	8
第Ⅲ章	東峰村の公共交通計画の提案	
1	計画の方向性 -----	9
2	計画事業の提案 -----	10
3	事業一覧（公共交通計画及び MaaS 戦略における提案事業） -----	23

1. 業務目的

東峰村では、JR 日田彦山線代行バスをはじめ西鉄バスのほか、高齢者等は村からの助成により村内の 2 社のタクシー事業者を利用して移動を行っている。その中で、2017 年 7 月、九州北部豪雨により鉄道が被災したため、2023 年から BRT での運行が決定している。村では BRT や西鉄バスの利用促進及び 2 次交通の整備の検討を行う必要がある。

以上のことから、本業務では「地域住民の移動手段の確保」を目的として、東峰村にとって最適な公共交通の手段を検討するため「東峰村地域公共交通計画（地域公共交通の活性化及び再生に関する法律に規定するもの）」の策定に向け、調査、分析等を実施することを目的としている。

2. 本報告書について

「地域住民の移動手段の確保」を目的とする本業務は、「東峰村への来訪客を対象」に産業・観光振興を主眼とした MaaS 戦略の策定を目的とする九州経済産業局主管事業「令和 3 年度九州地域における地域産業活性化に向けた次世代モビリティ調査事業」と並行して実施した。そのため、本報告書では「第 II 章 東峰村の現状整理」など一部を九州経済産業局主幹事業の調査結果に基づき作成している。

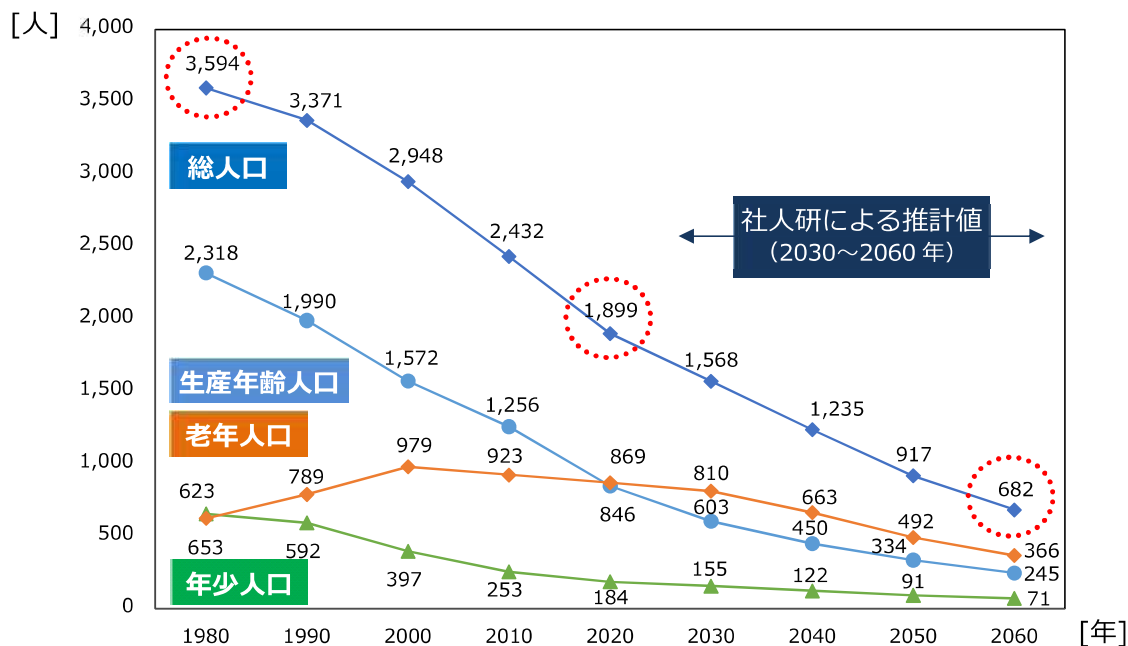


第II章 調査結果の主なポイント

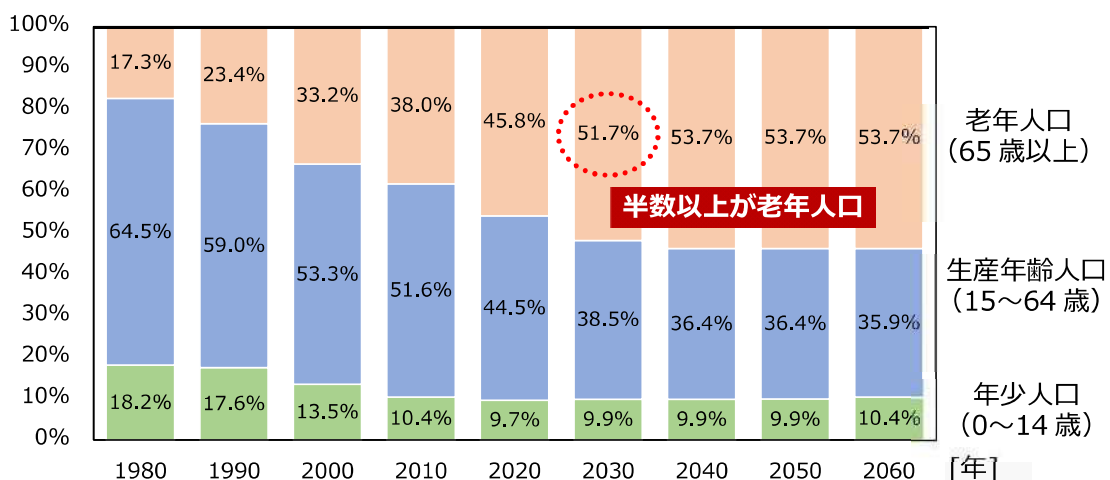
1. 調査結果の主なポイント

ポイント① 人口減少、高齢化が進行している。

東峰村では人口減少が進行しており、2060年には総人口が約682人と2020年(1,899人)からの40年間で「3分の1」近くにまで減少すると推計されている。



また、高齢化も進行しており、2030年には「老年人口(65歳以上)」が町全体の約51.7%を占め、総人口の半数以上が「老年人口」になると推計されている。



第Ⅱ章 調査結果の主なポイント

ポイント② 村内を路線バスが運行している。

朝倉市杷木－東峰村小石原間をつなぐ定時定路線型の「路線バス」が運行している。



ポイント③ 東峰村では2社のタクシー事業者が営業しているが、いずれの事業者も車両、運転手ともに多くはない。

東峰村では、2社のタクシー事業者が営業している。いずれの事業者も運転手、車両ともに、数人・数台と多くはない。



第Ⅱ章 調査結果の主なポイント

ポイント④ 村内をスクールバスが運行している。

東峰学園の小中学生が通学のために利用する「スクールバス」が運行している。小学生、中学生それぞれの登下校便があり、小石原地区を走行するバスと宝珠山地区を走行するバスの2系統が運行している。



ポイント⑤ スクールバスの車両は、朝夕の登下校時以外あまり利用されていない。

東峰学園の小中学生が利用するスクールバスは、5台（大型1台、中型4台）のバス車両で運行されている。朝夕の登下校時以外は、車庫に保管されていることが多く、あまり利用されていない。

第Ⅱ章 調査結果の主なポイント

ポイント⑥ 村の保健福祉施設「いずみ館」の送迎車両が運行されている。

村の保健福祉施設である「いずみ館」の利用者を送迎する車両が運行している。



ポイント⑦ 「いずみ館」の送迎車両は、村内全域を週6日運行している。

「いずみ館」の送迎車両は、当館休館日の月曜日を除く週6日、村内全域を運行している。

第Ⅱ章 調査結果の主なポイント

ポイント⑧ 始点から終点まで1人も乗車しない「空バス」が発生している。

路線バスの乗降調査（4日間）において、始点から終点まで1人も乗車しない「空バス」が12便（23.1%）発生している。

日付	最多乗車人数 [人]	空バスの便数 [便]	空バス率 [%]
11月18日 (木)	7	5	35.7
11月19日 (金)	7	3	21.4
11月20日 (土)	7	1	8.3
11月21日 (日)	4	3	25.0
合計	-	12	23.1

ポイント⑨ 第2次東峰村総合計画の基本施策として、「交通体系の整備」が進められている。

第2次東峰村総合計画の基本目標「美しく、安全で暮らしやすい村づくり」の基本施策として「交通体系の整備」が進められている。

<将来像> 美しい山里を継承し 豊かな暮らしを創造する 幸せな村

<基本目標> ② 美しく、安全で暮らしやすい村づくり

<基本施策> 2. 交通・通信体系の整備等

将来像 美しい山里を継承し 豊かな暮らしを創造する 幸せな村

基本目標② 美しく、安全で暮らしやすい村づくり

基本施策 2 交通・通信体系の整備等

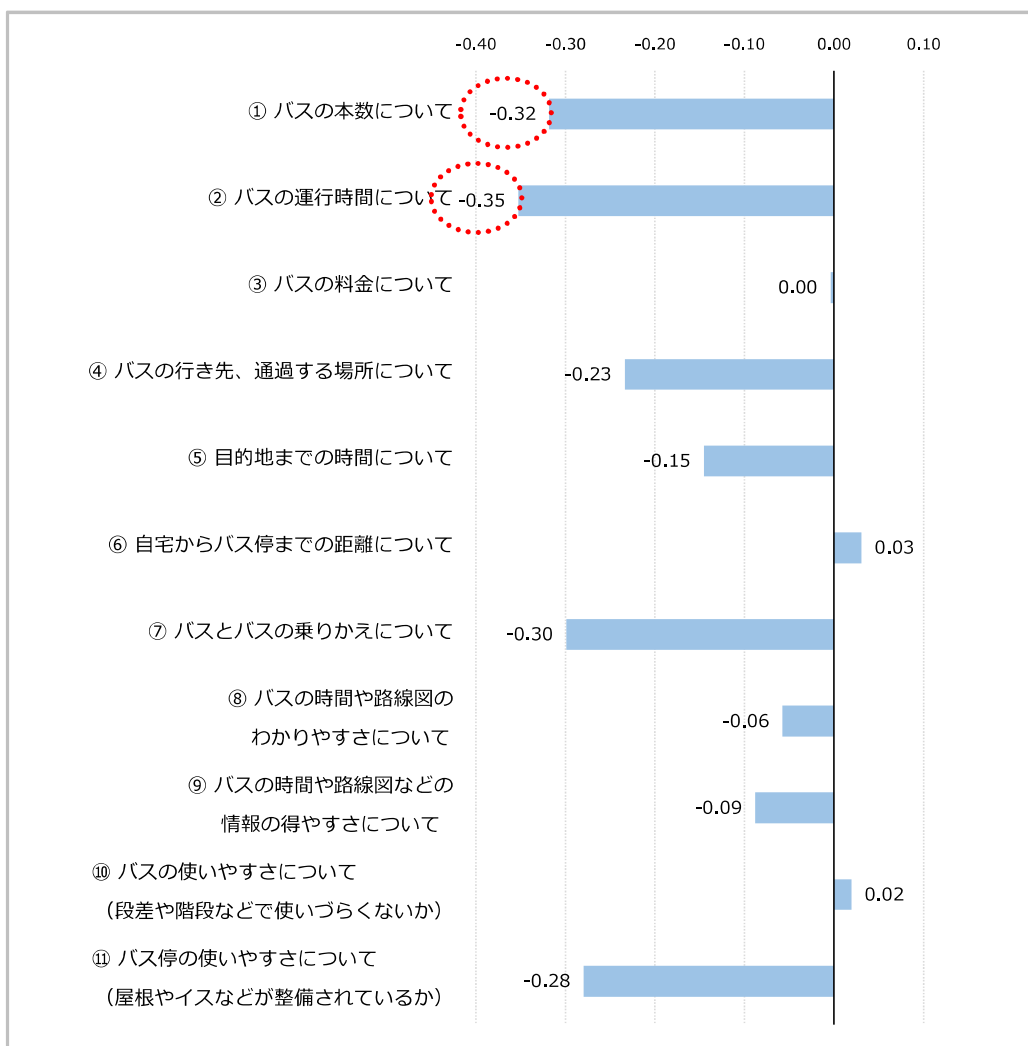
第Ⅱ章 調査結果の主なポイント

ポイント⑩ バスの運行時間に対する満足度が低い。

住民へのアンケート調査において、公共交通に対する満足度として「バスの運行時間」に対する満足度が低くなっている。

ポイント⑪ バスの本数に対する満足度が低い。

住民へのアンケート調査において、公共交通に対する満足度として「バスの本数」に対する満足度が低くなっている。



第II章 調査結果の主なポイント

2. 東峰村の公共交通計画の方向性

調査結果の主なポイントから、東峰村の公共交通計画の「方向性」について、以下のように設定した。

主なポイント

計画の方向性

ポイント①：人口減少、高齢化が進行している。

ポイント②：村内を路線バスが運行している。

ポイント③：東峰村では2社のタクシー事業者が営業しているが、いずれの事業者も車両、運転手ともに多くはない。

ポイント④：村内をスクールバスが運行している。

ポイント⑥：村の保健福祉施設「いずみ館」の送迎車両が運行されている。

ポイント⑨：第2次東峰村総合計画の基本施策として、「交通体系の整備」が進められている。

基本的方向性
村の既存の公共交通（交通資源）を
効果的、効率的に活用する。

ポイント②：村内を路線バスが運行している。

ポイント⑧：始点から終点まで1人も乗車しない「空バス」が発生している。

ポイント⑩：バスの運行時間に対する満足度が低い。

ポイント⑪：バスの本数に対する満足度が低い。

方向性①
路線バスの活用（見直し）

ポイント④：村内をスクールバスが運行している。

ポイント⑤：スクールバスの車両は、朝夕の登下校時以外あまり利用されていない。

方向性②
スクールバスの活用

ポイント⑥：村の保健福祉施設「いずみ館」の送迎車両が運行されている。

ポイント⑦：「いずみ館」の送迎車両は、村内全域を週6日運行している。

方向性③
いずみ館の送迎車両の活用

第Ⅲ章 東峰村の公共交通計画の提案

1. 計画の方向性

東峰村の公共交通計画では、以下の「基本的方向性」及び「3つの方向性」に基づき村の交通体系の整備に向けた取組み（計画事業）を提案する。

基本的方向性

村の既存の公共交通（交通資源）を効果的、効率的に活用する。

方向性Ⅰ 路線バスの活用（見直し）

朝倉市杷木－東峰村小石原間を運行する路線バスについて、空バスを解消する等の「効率的な運行」を進めるとともに、運行方法を見直すことで「利便性向上」につなげていく。

方向性Ⅱ スクールバスの活用

東峰学園の小中学生が利用するスクールバスについて5台（大型1台、中型4台）のバス車両で運行されているが、朝夕の登下校時以外はあまり利用されていないことから、「車両の効果的な運用」を図る。

方向性Ⅲ いずみ館の送迎車両の活用

施設の利用者のみが利用しているいずみ館の送迎車両について、施設利用者以外の混乗を認める等の「村内の移動手段としての活用」を図る。

基本目標（交通体系の整備）※

※「第2次東峰村総合計画」

美しく、安全で暮らしやすい村づくり



第三章 東峰村の公共交通計画の提案

2. 計画事業の提案【方向性Ⅰ】

事業①

路線バスにおける事前予約制の導入検討

<p><u>内容</u></p>	<p>■東峰村を運行する路線バス（杷木－小石原間）について、空バスの解消及び費用対効果の高い運行に向けた事前予約制の導入を検討する。</p> 
<p><u>狙い</u></p>	<p>■<u>事前予約制を導入</u>することで空バスの解消を図る。また、<u>利用（成果）に応じた費用負担等の導入</u>により、費用対効果の高い運行を図る。</p>
<p><u>事業のポイント</u></p>	<p>■1便当りの利用者数が少ないことから、<u>車両の小型化</u>も検討する。 （例：デマンド型の乗合タクシーの導入 等）</p> <p>■一方、事前予約制の導入及び車両小型化は、<u>利便性及び快適性の低下につながる懸念</u>もあることから、導入には慎重な検討が必要。</p> <p>■効率的な運行による費用削減と併せて、<u>ドアトゥドア運行の導入</u>や<u>便数を増やす</u>など利便性向上による利用促進策も検討する。</p> <p>■路線バスが通過する<u>他市（朝倉市、うきは市、日田市）との調整</u>が必要。</p>
<p><u>関連事業</u></p>	<p>事業②：路線バスの通学利用での利便性向上</p>
<p><u>実施主体</u></p>	<p>東峰村、交通事業者、路線バスの通過する自治体（連携） 等</p>

第Ⅲ章 東峰村の公共交通計画の提案

事業② 路線バスの通学利用での利便性向上

<p>内 容</p>	<p>■路線バスについて、通学（登校時）の利用者の多い便は、運行ルートを見直す等により乗車時間を短くすることで、利便性の向上を図る。</p>  <p>把木へ直行（経由地の見直し） ＝ 運行時間の短縮</p>
<p>狙 い</p>	<p>■通学（登校時）利用の多い便について、<u>経由地を見直すなど運行ルートを変更し乗車時間を短くする</u>ことで、通学生の朝の負担を軽減する。</p>
<p>事業の ポイント</p>	<p>■<u>登校時の便を対象</u>とし、帰宅時での利用の多い便は対象としない。</p> <p>■<u>経由地を見直すことで、経由地に居住している住民等が利用できなくなる懸念</u>があることから、導入には慎重な検討が必要。</p> <p>■増便により、<u>運行ルート（地域）を分ける</u>ことで、乗車時間を短くすることも想定される。一方、<u>増便による費用増が懸念</u>されることから、同様に導入には慎重な検討が必要。</p> <p>■<u>事前予約制の導入（事業①）</u>を考慮し検討することが必要。</p>
<p>関連事業</p>	<p>事業①：路線バスにおける事前予約制の導入検討</p>
<p>実施主体</p>	<p>東峰村、交通事業者 等</p>

第Ⅲ章 東峰村の公共交通計画の提案

2. 計画事業の提案【方向性Ⅱ】

事業③ スクールバス車両の有効活用

<u>内 容</u>	<ul style="list-style-type: none">■スクールバス車両について、利用頻度の低い昼間の時間帯での活用を図る。 
<u>狙 い</u>	<ul style="list-style-type: none">■スクールバスについて5台（大型1台、中型4台）のバス車両で運行されているが、朝夕の登下校時以外はあまり利用されていないことから、<u>車両の有効活用（効果的な運用）</u>を図る。
<u>事業の ポイント</u>	<ul style="list-style-type: none">■車両の活用とともに「運転手の確保」が必要。■車庫等でのスムーズな車両受け渡しに配慮することが必要。
<u>関連事業</u>	全事業：村内だけでなく、村外も含めて新たな運行を検討することが想定されることから、全ての事業において連携・調整が必要。
<u>実施主体</u>	東峰村、スクールバス関係者 等

第三章 東峰村の公共交通計画の提案

2. 計画事業の提案【方向性Ⅲ】

事業④ いずみ館の送迎車両を活用した村内の移動需要への対応

<p><u>内 容</u></p>	<p>■いずみ館の送迎車両に、施設利用者以外も混乗するとともに、いずみ館以外でも乗降できるようにする。</p> 
<p><u>狙 い</u></p>	<p>■いずみ館の送迎車両に施設利用者以外も混乗し、いずみ館以外でも乗降できるようにすることで、村内の移動手段としての活用を図る。</p>
<p><u>事業の ポイント</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ■事前予約制、ドアトゥドアによる運行、運賃（有料・無料）の設定など運行方法に応じた道路運送法等への法的対応が必要。 ■村内のタクシー事業者との協議、調整が必要。 ■送迎を担っている運転手との協議、調整が必要。
<p><u>関連事業</u></p>	<p>全事業：村内全域を運行することが想定されることから、全ての事業において連携・調整が必要。</p>
<p><u>実施主体</u></p>	<p>東峰村、いずみ館運営者、交通事業者 等</p>

第三章 東峰村の公共交通計画の提案

参考. 東峰村の「MaaS 戦略」における提案事業

本業務と並行して実施した九州経済産業局主幹事業において、東峰村の MaaS 戦略を提案した。東峰村の「公共交通計画」は「MaaS 戦略」と連動して展開していく。

事業① BRT 沿線の美しい景観等を活かした「周遊観光の促進」

<p>内 容</p>	<p>■BRT の「大行司駅」と「道の駅小石原」をつなぐモビリティを運行し、BRT から道の駅や窯元へつなぐ「周遊ルート」を構築することで、BRT を活用した東峰村への周遊観光の促進を図る。</p> 
<p>狙 い</p>	<p>■BRT から道の駅や窯元へつなぐ「周遊ルート」を構築することで、BRT 沿線の美しい景観と小石原での陶器鑑賞等がセットになった東峰村への周遊観光を促進する。</p>
<p>事業の ポイント</p>	<p>■現状、大行司駅－道の駅間は「路線バス」が運行している。 そのため、BRT の二次交通の充実に向けた路線バスの活用を検討するとともに、今後、路線バスの運行を見直す際は、上記「狙い」を考慮し検討を行うことが求められる。</p>
<p>実施主体</p>	<p>東峰村、交通事業者 等</p>

第三章 東峰村の公共交通計画の提案

事業② BRT 彦山駅を核とした「広域観光の促進」

<p>内 容</p>	<p>■ 添田町の BRT「彦山駅」と「道の駅小石原」をつなぐモビリティを運行し、彦山駅を核として BRT から道の駅や窯元へつなぐ「周遊ルートを構築」することで、BRT を活用した東峰村と添田町との広域観光を促進する。</p> 
<p>狙 い</p>	<p>■ 添田町の「彦山駅」を核として、東峰村の道の駅や窯元へつなぐ「周遊ルートを構築」することで、英彦山の景観や英彦山神宮等の観光資源と小石原での陶器鑑賞等がセットになった東峰村と添田町との広域観光を促進する。</p>
<p>事業の ポイント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 添田町の観光（交通）施策や同町の交通事業者等との調整が必要。 ■ 彦山駅を核としたモビリティの運行においては、季節性の需要変動が想定されることから、事前予約制での運行を検討することが必要。 ■ BRT と道の駅小石原を結ぶモビリティを複数運行（事業①、②）する必要性を検証することが必要。
<p>関連事業</p>	<p>事業①：BRT 沿線の美しい景観等を活かした「周遊観光の促進」 事業③：MaaS の推進に向けた「BRT 駅舎の活用」</p>
<p>実施主体</p>	<p>東峰村、交通事業者、添田町（連携） 等</p>

第三章 東峰村の公共交通計画の提案

事業③

MaaS の推進に向けた「BRT 駅舎の活用」

<p><u>内 容</u></p>	<p>■二次交通の起点となる BRT 駅舎においては、MaaS の推進に向けて待合環境を向上するとともに、IT を活用し、観光情報や二次交通等の情報発信拠点としての機能を強化する。</p> 
<p><u>狙 い</u></p>	<p>■BRT 駅舎での待合環境の向上及び情報発信機能を強化することで、観光等での移動快適性及び移動利便性の向上を図り、観光の魅力向上につなげていく。</p>
<p><u>事業の ポイント</u></p>	<p>■BRT を運行する JR との調整が必要。 ■IT を活用した効果的な観光情報・交通情報の発信を検討するとともに、観光・交通情報だけでなく、地元産品の情報発信等も検討する。</p>
<p><u>関連事業</u></p>	<p>事業①：BRT 沿線の美しい景観等を活かした「周遊観光の促進」 事業②：BRT 彦山駅を核とした「広域観光の促進」</p>
<p><u>実施主体</u></p>	<p>東峰村、JR（連携）等</p>

第三章 東峰村の公共交通計画の提案

事業④

新たなモビリティによる「窯元を巡る周遊観光の促進」

<p>内 容</p>	<p>■ 道の駅小石原等を起点に、窯元を巡るモビリティを運行することで村内の周遊観光の促進を図る。</p> <p><乗合タクシー></p>  <p><貸切タクシー></p>  <p><窯元マップ></p> 
<p>狙 い</p>	<p>■ BRT から二次交通を利用して、道の駅小石原に來訪した観光客等の道の駅から窯元を移動（周遊）するモビリティを確保することで、公共交通を利用した観光振興につなげていく。</p>
<p>事業の ポイント</p>	<p>■ 季節性の需要変動が想定されることから、<u>事前予約制での運行</u>を検討することが必要。</p> <p>■ 高額でもよいので希望の窯元へ自由に周遊したい観光客（高嗜好層）、予め決まった窯元でいいので安価に周遊したい観光客（低嗜好層）など<u>観光客の嗜好に応じたモビリティを検討</u>することが必要。 （高嗜好層：貸切型モビリティ、低嗜好層：定路線乗合型モビリティ）</p> <p>■ 定路線型のモビリティでは、<u>予め周遊する窯元の選定（調整）</u>が必要。</p>
<p>関連事業</p>	<p>事業①：BRT 沿線の美しい景観等を活かした「周遊観光の促進」 事業②：BRT 彦山駅を核とした「広域観光の促進」 事業⑤：観光客向けのモビリティによる「村内観光の魅力向上」</p>
<p>実施主体</p>	<p>東峰村、交通事業者、道の駅小石原、小石原焼陶器協同組合 等</p>

第Ⅲ章 東峰村の公共交通計画の提案

事業⑤

観光客向けのモビリティによる「村内観光の魅力向上」

<p><u>内容</u></p>	<p>■道の駅小石原等を起点に、旅客用オート三輪「トゥクトゥク」を運行し、周遊観光等でのレトロな雰囲気を感じる移動手段を確保することで、村内観光の魅力向上を図る。</p> <p style="text-align: center;"><トゥクトゥク></p> 
<p><u>狙い</u></p>	<p>■移動目的だけでなく、<u>乗車自体が目的となるモビリティ</u>を運行または貸し出すことで、村内での周遊観光の魅力向上につなげる。</p>
<p><u>事業のポイント</u></p>	<p>■運行形態として「<u>運転手付きでの運行</u>」または利用者に貸し出し自らが運転する「<u>レンタルでの運行</u>」が想定される。特に運転手付きでの運行では、<u>運転手の確保が必要であることから、より慎重な検討が必要</u>。</p> <p>■季節性の需要変動が想定されることから、運転手付きでの運行では<u>事前予約制での運行</u>を検討することが必要。</p> <p>■トゥクトゥク車両の配置が必要であることから、購入費用や整備費用等の新たなコストが発生する。そのため、車両の短期レンタル等による<u>実証運行を実施し、需要（市場性）を検証</u>することが必要。</p> <p>■車両の整備保管とともに、レンタル手続きの窓口等の運転手に加えて<u>運行を管理するプレイヤーの確保</u>が必要。</p>
<p><u>関連事業</u></p>	<p>事業①：BRT 沿線の美しい景観等を活かした「周遊観光の促進」 事業④：新たなモビリティによる「窯元を巡る周遊観光の促進」</p>
<p><u>実施主体</u></p>	<p>東峰村、交通事業者、道の駅小石原、小石原焼陶器協同組合 等</p>

第Ⅲ章 東峰村の公共交通計画の提案

事業⑥

貨客混載による「都市部への地域産品の出荷」

<p style="text-align: center;"><u>内 容</u></p>	<p>■ BRT 等での「貨客混載[※]」を活用し、東峰村の地域産品を小倉駅等の都市部に出荷、販売する。</p> <p>※公共交通を活用し、乗客（人）とともに「商品（物）」を運ぶ仕組み</p> <p style="text-align: center;">＜路線バスによる貨客混載＞</p>  <p style="text-align: center;">2021年3月10日「南海日日新聞」</p>
<p style="text-align: center;"><u>狙 い</u></p>	<p>■ BRT 等を移動手段だけでなく、<u>輸送手段としても活用</u>することで、公共交通をより効果的に活用した産業・観光振興を図る。</p>
<p style="text-align: center;"><u>事業の ポイント</u></p>	<p>■ <u>貨客混載の強みである「即時性（短い輸送時間）」</u>を最大限考慮して、出荷物や出荷・販売場所を設定することが必要。 （出荷物例：傷みやすいヤマメ等の鮮魚等、販売場所：小倉駅等）</p> <p>■ BRT 等への<u>搭載方法</u>、<u>出荷物の梱包方法</u>を検討することが必要。</p> <p>■ 市場となる<u>都市部での販路開拓</u>の取組みを行うことが必要。</p>
<p style="text-align: center;"><u>関連事業</u></p>	<p>事業③： MaaS の推進に向けた「BRT 駅舎の活用」</p>
<p style="text-align: center;"><u>実施主体</u></p>	<p>東峰村、地域産品関連事業者、JR（連携）等</p>

第三章 東峰村の公共交通計画の提案

事業⑦

モビリティ利用者をターゲットとした「新商品の開発」

<p><u>内 容</u></p>	<p>■BRT の利用する観光客等をターゲットとした東峰村の新たな地域産品を開発し、販売する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>小石原焼、高取焼の販売</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>地域産品の販売</p>  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div>
<p><u>狙 い</u></p>	<p>■BRT 等の利用を<u>新たなサービス（ビジネス）の機会につなげる</u>ことで、東峰村の観光・産業振興を進めていく。</p>
<p><u>事業の ポイント</u></p>	<p>■ヤマメ等の地域産品による駅弁の開発等の <u>BRT 等の利用において、販売が見込まれる商品</u>の開発が想定される。 （商品例：駅弁や飲み物、スイーツ等、販売場所：BRT 車内、駅舎等）</p> <p>■地域産品と<u>日田彦山線（及び BRT）とのコラボレーショングッズ</u>の開発が想定される。 （グッズ例：小石原焼による汽車土瓶、販売場所：BRT 車内、駅舎等）</p> <p>■商品の開発、販売、宣伝においては、<u>JR の支援・協力</u>が求められる。</p>
<p><u>関連事業</u></p>	<p>事業③： MaaS の推進に向けた「BRT 駅舎の活用」</p>
<p><u>実施主体</u></p>	<p>東峰村、地域産品関連事業者、JR（連携） 等</p>

第三章 東峰村の公共交通計画の提案

事業⑧ 近隣自治体との「広域連携」

<p><u>内 容</u></p>	<p>■近隣自治体及び近隣自治体の交通事業者等と連携し、新たな移動需要を担うプレイヤーを広域で確保していく。</p> 
<p><u>狙 い</u></p>	<p>■広域での<u>交通資源の効率的な再配置</u>によるプレイヤーの創出、確保を図るとともに、<u>広域移動の利便性向上</u>による広域観光の振興を図る。</p>
<p><u>事業の ポイント</u></p>	<p>■近隣自治体との広域連携に向けた協議、調整が必要。 あわせて、近隣の交通事業者との協議、調整が必要。</p> <p>■タクシー事業者は、<u>営業区域を考慮</u>して連携を図ることが必要。</p> <p>■予約事務やシステムの導入等においては、自治体を跨いで共同で運営するなど、<u>広域連携による効率化</u>を図ることが必要。</p>
<p><u>関連事業</u></p>	<p>全事業：全ての事業において、広域連携による効果的かつ効率的な事業の展開を検討する。</p>
<p><u>実施主体</u></p>	<p>東峰村、近隣自治体、村内及び近隣自治体の交通事業者 等</p>

第Ⅲ章 東峰村の公共交通計画の提案

事業⑨ 地域の体制による「勉強会の開催」

<p><u>内 容</u></p>	<p>■ MaaS 戦略の展開に向けた広域連携等の体制構築において、勉強会を開催し、戦略の啓発や自治体職員も含めたプレイヤーの育成を図る。</p> 
<p><u>狙 い</u></p>	<p>■ 勉強会を開催し、戦略の啓発や自治体職員も含めたプレイヤーの育成を進めることで、より<u>実践的な事業の展開</u>につなげていくとともに、<u>公共交通を担う（支える）持続可能な MaaS</u>を実現していく。</p>
<p><u>事業の ポイント</u></p>	<p>■ 広域連携（事業⑧）での近隣自治体の関係者の参画を図る。 ■ 勉強会では、自動車ディーラーなど<u>異業種からの参画</u>も図る。</p>
<p><u>関連事業</u></p>	<p>全事業：全ての事業を勉強会でのテーマとして検討する。</p>
<p><u>実施主体</u></p>	<p>東峰村、近隣自治体、交通事業者、観光関連事業者、自動車ディーラー 等</p>

第三章 東峰村の公共交通計画の提案

3. 事業一覧（公共交通計画及び MaaS 戦略における提案事業）

方向性	事業	実施主体
東峰村「公共交通計画」		
	①路線バスにおける事前予約制の導入検討	東峰村、交通事業者 等
	②路線バスの通学利用での利便性向上	東峰村、交通事業者 添田町（連携） 等
	③スクールバス車両の有効活用	東峰村 スクールバス関係者 等
	④いづみ館の送迎車両を活用した村内の移動需要への対応	東峰村、JR（連携） 等
参考 東峰村「MaaS 戦略」		
	①BRT 沿線の美しい景観等を活かした「周遊観光の促進」	東峰村、交通事業者 等
	②BRT 彦山駅を核とした「広域観光の促進」	東峰村、交通事業者 添田町（連携） 等
	③MaaS の推進に向けた「BRT 駅舎の活用」	東峰村、JR（連携） 等
	④新たなモビリティによる「窯元を巡る周遊観光の促進」	東峰村、交通事業者 道の駅小石原 小石原陶器共同組合 等
	⑤観光客向けのモビリティによる「村内観光の魅力向上」	東峰村、交通事業者 道の駅小石原 小石原陶器共同組合 等
	⑥貨客混載による「都市部への地域産品の出荷」	東峰村 地域産品関連事業者
	⑦モビリティ利用者をターゲットとした「新商品の開発」	JR（連携） 等
	⑧近隣自治体との「広域連携」	東峰村、近隣自治体 村内及び近隣自治体の 交通事業者 等
	⑨地域の体制による「勉強会の開催」	東峰村、近隣自治体 交通事業者 観光関連事業者 自動車ディーラー 等